

「平成28年度 第1回大分市子ども・子育て会議」で出された主な意見

- 1 日時 平成28年8月8日(月) 13:30~15:30
- 2 場所 保健所6階 大会議室
- 3 参加者
- 4 委員からの主な意見と事務局回答

【議事(1)】前回の各委員からの質問や意見について

委員からの質問・意見	事務局回答
特になし	

【議事(2)】平成27年度の実績及び平成28年度の取組み状況について

委員からの質問・意見	事務局回答
<p>(委員)</p> <p>・小中学校空調設備整備事業について、整備するにあたっての優先順位を教えてください。</p> <p>・目標5「学校、家庭、地域が一体となった学校づくり」の達成状況が50%となっているが原因や課題は何か。</p>	<p>中学校を30年度、小学校を31年度、32年度の2か年で整備予定です。PFI方式で、施工のし易さや熱源なども考慮し、施工の順番も含め民間から提案をもらうこととなっており、優先順位の付け方は現段階では決まっておりません。</p>
<p>(委員)</p> <p>・「保育士の人材確保」について、各園では求人に苦慮している。市で具体的に取り組んでいることがあれば教えてください。</p>	<p>・目標内の指標について、達成状況が順調でない割合が半分を占めているため、50%となっている。原因については、意見交換会の中でご意見をいただきたいと思っております。</p>
<p>(委員)</p> <p>発達障がい児の巡回専門員派遣事業について、園の希望により回数を増やしてもらえるのか。</p>	<p>事務改善のためICT導入費用を予算化しています。ハローワークと協働でのマッチングのほか、希望者には公立保育所で体験をしてもらっています。なお、29年度に向けて、処遇の面で市独自の改善を検討中です。</p>
	<p>今年度は5法人に委託することから、希望する園に可能な限り対応できるよう検討してまいります。</p>

<p>学校給食で牛乳を飲みたくない場合は、医者の診断書が必要なのか。</p> <p>(委員)</p> <p>1歳6か月健診、3歳児健診の未受診の保護者への指導はどのようにしているのか。また就学時健診の未受診者がどの程度いるのか、未受診者はそのままなのか。</p>	<p>嗜好の問題なのか、健康面の問題なのかという違いはあるものの学校で強制はしておらず、保護者との相談や給食委員会などで諮りながら適切に配慮することとしています。</p> <p>1歳6か月健診、3歳児健診の未受診者の半数程度は転居や保育所で受診済などの明確な理由がある方です。その他の方には、保健師等が訪問等を行い受診勧奨を行い、不明の方はいない状況です。</p> <p>就学時健診については、数名はいるものの、入院中であつたり、その他の課題を抱えている児童と聞いています。</p>
---	---

【議事(3)】意見交換

テーマ 『子どもと子育てを支える社会づくり』

委員からの質問・意見	事務局回答
<p>(委員)</p> <p>・今の子どもたちは、身近に祖父母世代がいないため、限られた命という自覚がないことが、いじめや差別につながっているのではないか。世代間、異年齢間の交流の場や体験活動の場は大切であり、そのような活動機会の提供、活動に関する情報提供を行政で行ってもらえると子どもたちが健やかに、生きる力をつけると思う。</p> <p>(委員)</p> <p>子どもの成長に伴い、スマホ等の情報メディアとの付き合い方が心配である。お母さんに対し、妊娠中や赤ちゃんの時代に適切な指導をし、子どもに伝えること、子どもは学校で一緒に考えるシステムが必要だと思う。</p> <p>(委員)</p> <p>アメリカでは、保護者がボランティア活動をしたり、寄付等で相当な費用負担を行うことで、子どもの学校に参加や協力をし、子どもの教育文化の向上に努めていた。背景には、社会全体で子どもを育てようという気持ちがあるのではないか。</p>	

<p>(委員) 地域と保護者を結びつけながら、子どもたちの生きる力や日本の歴史や風土を学ぶ取組みをしていく必要があると思っている。</p> <p>(委員) 市や地域の一斉ごみ拾いで、PTA、保護者、地域が参加することで、地域の結びつきができています。</p> <p>(委員) 支援が必要な若者には、体験活動型のソーシャルスキルトレーニングを行っている。 今は、子どもも大人も体験しながらコミュニケーション力、規則やルールなどの社会性を身につけることが大切であり、行政でそのような場の提供をすることで子どもの育ちにかかっている問題を解消できるのではないかと考えています。</p> <p>(委員) 夏休み中の地域でのラジオ体操の実態はどうなっているのか。また、プールの利用はどのようになっているのだろうか。</p>	<p>(委員) ラジオ体操は、子ども会等が中心になり独自で取り組んでいるところが多い。 プールは校長判断で、夏休みに開放するか決めた上で、実施する場合は、PTAが中心になって計画をし、監視も行っている。</p> <p>(委員) ラジオ体操については、子ども会が自主的に行っている。</p> <p>(委員) ラジオ体操は子ども会で実施しており、強制力はなく、回数も各々である。</p>
---	---

(委員)

- ・子育てサロンや地域活動に中学生が参加してくれているが、中学生の成長過程に大切な時間であると思うので、学校にも協力してもらい地域の活動の場をつくりたい。
- ・子育てサロンで、参加者にメディアとの付き合い方について、話を聞く機会を設けたい。

(委員)

地域で子育て支援活動を行っているが、情報が乏しい。まずは、お母さん方とのつながりを持つこと、また、保護者が地域に何を求めているのかを知るための話し合いの場を持ちたい。

(委員)

今は子ども同士のつながりが希薄で、子どもの活動の場所も減っており、自立するための力をつけないと生きていけないのではないかと思う。

(委員)

- ・利用が少ないショートステイ、トワイライトについて、受入が進むよう周知をしてほしい。
- ・勉強0時間、スマホ6時間の高校生がいることが調査によりわかっている。幼少期からスマホの動画を見ていたり、ソフトにしつけをされている子ども達を見ると、親がすべきことをスマホにさせて、その結果なのではないかと思われる。このような高校生の実態を子どもが小中学生の段階で早めに親へ情報提供したほうが良いと思う。

(委員)

- ・子どもに家の鍵を持たせられないなど、親が過剰に心配している感がある。
- ・大人がみんなで子どもを見守り、悪いことがあれば、誰もが注意する必要がある。
- ・親をはじめ大人が、何かを与えるだけでなく、子どもに向かって使う言葉にも気をつけることが大事だと思う。

(委員)

魅力ある地域づくりのために自治会や子ども会とともに活動を続けることが大切だ。

(委員)

- ・様々な制度や支援が整う中、親はそれを受けるだけでなく、感謝をしつつ、自分が何をすべきかを考えるべきだと思う。
- ・多くの制度があるが、現場で、子どもに何をするか、保護者に何を伝えるか具体的に考えないといけない。
- ・学習指導要領の改訂にあたり、日本における幼児期の生活体験や基本的な技能が不足しているという実態を踏まえ、質の高い教育・保育をどう行うのか、地域性も勘案しながら具体的に検討するべきである。

(委員)

- ・公民館や小学校の区域において、ボランティアの方や保育園・学校関係者、医療関係者など子育てに関わる者たちで連携するための情報交換の場が必要だと思う。
- ・発達障がいや子どもの貧困という大変な課題に対するために、保育園・幼稚園に在園していない子どもの家庭に手を差し伸べるのが行政や保育園などの専門機関ではないかと思うので、連携する場を設けて情報交換をしたい。